

School of Music

本学ウインドオーケストラが世界的作曲家の新譜・初演曲を含むファーストCDをリリース

●音楽学部
松浦 修 准教授—— MATSUURA Osamu
八木澤 教司 専任講師—— YAGISAWA Satosbi
稲本 渡 専任講師—— INAMOTO Wataru



●「神戸学院大学音楽学部ウインドオーケストラ」(全11曲) 6月上旬、ワコーレコードより発売。講師陣の独奏や、コロナをモチーフに作られた新譜、さらに神戸学院記念歌「Beauty Becomes a College」など、魅力的な楽曲を多数収録。

音楽学部で2019年に新設されたウインドオーケストラが、今年6月に初となるCDをリリースする。大手出版社ハル・レオナード・ヨーロッパとのタイアップにより、世界的に著名な作曲家の新譜と日本初演権の提供が実現し、録音されたその楽曲は、ヨーロッパやアメリカ、日本、アジア諸国へと流通されることとなった。今回、記念すべきCD作成に尽力された音楽学部の先生方にその意気込みを聞いた。



レコーディングに向けた最終リハーサルの様子▶

前例のないレコーディングCDを
 本学が音楽学部の新規授業科目としてウインドオーケストラを立ち上げたのは、今から2年前。指導陣には学生にとって単に演奏会を行うだけのものではなく、やりがいのあるプロジェクトのなかで有意義な経験をさせられるものになりたい、という想いがあったという。そのなかから生まれた計画のひ

とつが、CDのリリースだった。もちろん音楽大学発信のCDは他にも事例が多く、珍しいことではない。「せっかくなら、従来の吹奏楽曲を収録するだけでなく、新譜を本学から発信し吹奏楽レパートリーの開発をしよう」とは、八木澤専任講師からの提案。さらにかねてより作曲家として契約している世界的出版社のハル・レオナードに本学ウインドオーケストラを紹介、SNS



松浦 修 准教授 八木澤 教司 専任講師 稲本 渡 専任講師

にアップした演奏が作曲家たちからも好評だったことが後押しとなり、新譜の楽譜と日本初演権を提供するという異例な申し出もスムーズに決まった。
学生にとって貴重な経験
 通常はすでに録音・演奏されたことがある曲を演奏することが多いが、今回提供された新譜の初演とは録音されたものがまったくない状態。「楽譜からの情報しかないというのは、ゴールが見えづらい状態です。学生も切磋琢磨しながら少しずつ楽譜を読み解いていきました」と話すのは松浦准教授。今回、演奏者として参加した稲本専任講師は「新譜にはお手本とする演奏が存在しない。そのなかで、どう演奏していくかをみんなでまとめていったのが、非常に大きな収穫。学生が大きく成長

●演奏会情報

【日時】2021年9月23日(祝)
 15:00~
 【場所】エミリー・ホワイト・スミス記念講堂
 ※参加申込詳細は音楽学部ホームページを参照

女学院公式YouTubeチャンネルで日本初演音源を公開!



「音楽によるアウトリーチ」を発展させた民間企業との産学連携協定を締結



▲2020年2月27日、大学内において協定書調印式が行われた

2020年2月、スマリケアライブ株式会社と本学が産学連携協定を締結した。老人ホームや在宅介護サービスの企画・運営を行う同社が新しくオープンしたサービス付き高齢者住宅「エレガーノ西宮」がその舞台。入居者のQOLを高めるため、学生たちはどのようなことに挑戦していくのか、音楽学部では珍しい産学連携とはどのようなものか、松浦准教授に話を聞いた。



●音楽学部 松浦 修 准教授

「産学連携に至ったきっかけは？」
 社会福祉学が専門の本学教授を介して、「新しくオープンする高齢者入居施設で、音楽を通じて入居者のためになりたい」という同社からの相談がきっかけでした。もともと音楽学部は、津上智実教授を中心に小中学校や病院等に学生が赴いて演奏活動を行う、「音楽によるアウトリーチ」を2001年から展開してきました。その土台を生かし、地元西宮市の高齢者福祉・人材育成・芸術文化の発展に寄与する取り組みを実現できればと思っていました。
協定の内容を教えてください。
 協定書で決めた年度予定は、学生によるコンサートが6回、七夕もしくはクリスマスに行う卒業生によるコンサートが1回、あと教員による音楽に関する講演会が1回、になります。先生方と何度も検討を重ね、回数や内容もしっかりとボリューム感をもたせました。コンサートに学生が向いていけるよう、組み立てています。
協定を結び、定期的に演奏会を行うメリットとは？」
 エレガーノ西宮という固定の場所でも長期的に音楽プログラムを展開していくことが可能となります。キャンパス

を離れて、学生が実社会と繋がることのできる貴重なインターンシップの場になると思っています。単に演奏が出来るだけでは、将来、音楽で身を立って行くのは大変です。人や社会のために音楽で何ができるのか、ニーズに合わせたものを自分で考え工夫し提供するという感覚は、在学中に育てておかないといけません。実際に自分たちでプログラムを考え、そのための練習もして、トーク内容や会場の飾りつけも学生自らが考える。もちろん我々も指導しますが、ベースはすべて学生たちが考えて組み立てます。長期的にこういう場が与えられるというのは、我々が教育をしていくうえでも、とてもありがたいことだと思います。学生にとっても大きな学びになると思います。
昨年度の成果を教えてください。
 協定を結んだのが2020年の2月。昨年度は協定書の内容で演奏会をシリーズで行う予定だったのですが、先方が高齢者施設ということもあり、世情の関係で実際に公演を行うことができたのは12月19日のクリスマスコンサート1回だけになってしまいました。入居者の方たちとクリスマスキャロルを歌う予定でしたが、歌わずに聞いて楽しんでいただけのように急遽、弦楽合奏版に編曲しました。入居者の方も演奏を聴くという機会がとても貴重だったようで、「気持ちよくクリスマスをお過ごしください」と、「良いクリスマスを迎えられた」と、とても喜んでくださいました。

「今後の展望をお聞かせください。」
 まず今年度は、予定通りに演奏会をすべて開催したいです。そして将来的には同系列にも多くの高齢者住宅があるとお聞きしているの、より多くの方々に学生たちの音楽を届けていきたいいなと思っています。学生たちの音楽とやる気で、さらなる社会貢献ができる可能性はまだ大であると思います。今回の産学連携協定が、その第一歩となれば嬉しいですね。



▲「エレガーノ西宮」で開催されたクリスマスコンサート

「学生の反応はどうでしたか？」
 学生のなかでも、やりがいのあることができた！という達成感を感じていたようです。僕らが常に大事だと思っている、現場で、自分たちの力でやり遂げる、という体験をして、そのやりがい、難しさも感じました。一人ひとりが主体的にしっかりと準備して、現場へ届けるという責任をしっかりと感じられていた様子だったので、ほんとに良い機会になったと思います。